

交通安全について学ぼう

学校の行き帰りは、歩いていても危険がいっぱい
～岡山市北区奥田本町の活動～



日時:平成 30 年 6 月 9 日(土)10 時から 12 時まで
場所:マイクロメイト岡山株式会社 交通安全 ～まなびのば～
対象:小学生とその家族
主催:NPO 法人 安全安心 心のまなびば
協力:マイクロメイト岡山株式会社

「NPO 法人 安全と安心 心のまなびば」は、奥田本町を安全で安心して暮らして行ける町内にするために立ち上がった。

交通安全教室の活動としては、昨年に奥田本町の高齢者を対象として開催した。

様々な機材を体験することで、身体機能の衰えを知り、一瞬の判断ミスが大きな事故に繋がるということを改めて学習をした。

そして、平成 30 年 6 月 9 日に奥田本町の小学生とその家族を対象に、交通安全教室が開催された。

学校が指定をしている、安全だと思われる登下校の道路にも、沢山の危険が潜んでいることを、子供たちだけではなく、家族にも再認識してもらう取り組みを行った。

限られた時間の中で、低学年・高学年・大人と 3 班に分かれて、座学や機材を通して交通安全について学習をした。

学習内容や体験風景を次のページから記載をしている。

座学講座



【低学年】 幼稚園から3年生

普段よく目にする信号機や横断歩道の正しい知識を簡単なクイズ形式で学習をした。

担当者：木村副理事長

【高学年】 4年生から6年生

ドライバーから歩行者はどのように見えるのか。また、ドライバーには『死角』があることをプロジェクターに映し出された問題に対してそれぞれが意見を発表し学習をした。

担当者：高橋理事



【大人】

岡山県内で実際にあった事故をもとに、ドライバーの運転中の思考や視野が運転にどれだけ関係をしているのか学習をした。

担当者：金光理事長



歩行シミュレータ（低学年班・高学年班）

機械の前に立ち、その場で足踏みをすることで、画面上の道路横断の映像が動き、簡単に横断体験が出来る。

『信号機の色についての理解』『横断時の手上げやドライバーとのアイコンタクトの必要性』を学習した。



左右の安全確認は
ゆっくり丁寧に良く見て。



信号が青になっていても、
しっかり左右の確認をすること。



【感想】

ちゃんと手を上げたら車は止まってくれたのに、
自転車やバイクは止まってくれなくて、ビックリした。

自転車シミュレータ（低学年班・高学年班）

普段乗っている自転車の感覚で体験が出来る。この機材を通して、『発進時の後方確認の重要性』『ヘルメットの必要性』『様々な道路標識の知識』について学習をした。

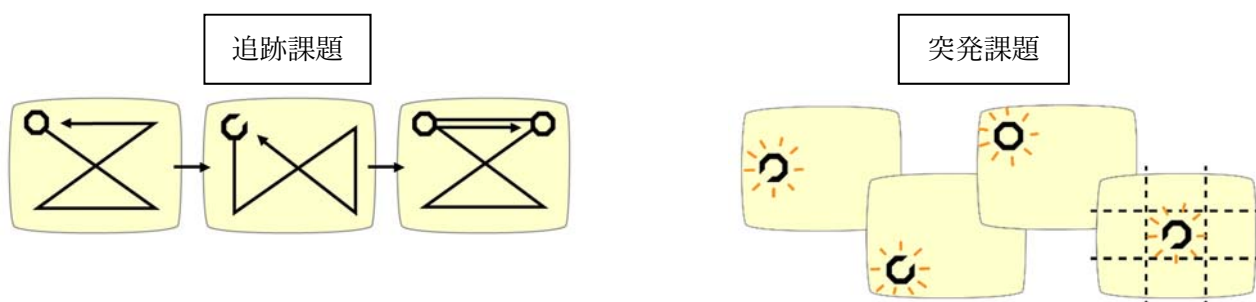


動体認知診断（大人班）

交通場面における総合的視覚機能の『動体認知』を、簡単な2つの検査を行うことで、自分自身の弱点を知ることが出来る。『動体認知』とは、動体視力のように前方から近づくものをチェックするのではなく、「交通場面において微細な変化をきちんと見極めることが出来るのか」また、「突然飛び出してくるものを素早く発見できるのか」といった検知機能を指します。

検査内容としては、画面上に出現したターゲットを目で追い、正しい形になればボタンを押す検査（追跡課題）。画面上に急に出てきたターゲットが正しい形ならボタンを押す検査（突発課題）。それぞれ、短時間で検査が出来る。

集中力が切れて、誤反応を起こす方もおり、長時間の運転がいかに危険なのかを学習し、一瞬の誤反応が事故になる可能性を再認識した。



【感想】

体験中自分自身の集中力がだんだん切れてきているのがわかっていたが、関係のないときについつい誤反応を起こしてスイッチを押してしまった。これが運転中の誤反応じゃなくて本当に良かった。

視野診断計（大人班）

視野とは、「一点を注視し、眼を動かさずに見ることのできる範囲のこと」を言う。

交通場面において、情報の約 80%が目から入ってくると言われている。どの程度情報を捉えることができるのかは人によって違い、視覚機能は 40 代から加齢と共に衰えていく。

この機材は、自分がどのくらいの範囲が見えているのかを認識することが出来る。今回の体験では、片眼ずつ体験し、普段両目では見えているようで見えていない箇所を知り、いくら視力が良くても、見える範囲が狭ければ、情報を見落とす危険性を学習した。



一か所赤色のランプが点灯する



結果の説明



【感想】

片眼ずつ体験することで、両目の上側が見えていないことに気づいた。特に上側は、加齢と共に瞼が落ちてきて見えにくくなることを初めて知った。

また、15度の角度に盲点があることを聞き、片眼運転がどれだけ危険なのかを学ぶことが出来た。

歩行者シミュレータ（まとめ）

歩行者・ドライバーのそれぞれの立場になって学習をした。特に『薄暮時・夜間の道路横断の危険』に重点をおき、歩行者の反射材と服装によるドライバーの見え方の違いについて学んだ。



【感想】

反射材の必要性を痛感し、子供たちの塾などからの帰宅時には着用を促したい。

シートベルトの効果と必要性

運転手だけでなく、助手席や後部座席でもシートベルトをなぜ着用するのか。

機材を通して衝突時や横転時を体験することで、シートベルトの必要性を学習した。



横転体験

シートベルト・パーフェクト・トレーナー



衝突体験

シートベルト・エアバッグ衝撃体感装置

【感想】

今までシートベルトは着用していれば良いと思っていた。初めて横転体験をしてみて、シートベルトの重要性を学んだ。これからは後部座席でも必ずシートベルトの着用と引き戻しを行う。

まとめ

今回の交通安全教室を通して、奥田本町が安全で安心して暮らせる町内にするための二歩目を踏み出した。

子供たちは、道路横断時には最初の一步にブレーキをかけて、左右の安全確認やドライバーとのアイコンタクトをしっかり行うこと。

大人は、自分自身の身体機能の衰えを受け入れ理解し、自動車の運転は余裕を持って行動し、常に危険を予測すること。常に子供たちの模範になることを学んだ。

この体験が楽しかったで終わることなく、友達や家庭内での交通安全に繋がることを願い、更なる講習の内容充実を考えていきたい。

